

第2期仙台市教育振興基本計画



平成29年1月

仙台市教育委員会

ミッション3：確かな学力の育成

幼児期からの切れ目のない教育により、小・中学校の入学時などの環境変化に対応できる力を育むとともに、個に応じたきめ細かな指導により、児童生徒の学習意欲の向上を図り、基礎的知識の定着や応用力の育成を図ります。

施策1 幼児期からの切れ目のない教育の推進

■現状や課題

- 小学校入学における様々な環境の変化に児童が適応できないことで、児童自身の成長や学級経営に影響を及ぼすことがあります。
- 児童が入学当初から学校生活にスムーズに適応できるよう、幼児期に体験した遊び的要素と小学校での教科学習の要素を組み合わせた「スタートカリキュラム※14」を全校で実施していますが、幼保・小のカリキュラムを整理し、さらに円滑な接続を図ることが求められています。
- 合同研修会や情報交換会などの実施により、幼保・小の連携の必要性に対する認識が高まり交流活動が進められていますが、地理的な問題や新規の保育園・認定こども園の増加により、連携が難しい地域が見られます。
- 小学校から中学校に進学する段階で不登校となる生徒が増加するなど、環境変化によるギャップ（学習面・生活面・人間関係）が自分の力では乗り越えにくくなっていると考えられています。

※これまでの主な事業 幼保・小の連携 小1生活・学習サポーターの配置
中学校区・学びの連携モデル事業

今後の方向性・取り組み

- 幼保・小に関わる関係機関・団体との連携を図り、各小学校区において幼保の就学前のカリキュラムと小学校のスタートカリキュラムを整理し、切れ目なく子どもが学び活動できるよう進めます。
- 幼保の教育・保育内容、小学校の教育内容について、互いに理解し、実践に生かすために、授業や保育を参観し合う教職員同士の交流や保護者の理解の促進を図ります。
- 小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指し、小・中が連携して指導体制・指導方法の改善に取り組むとともに、学校・家庭・地域が一体となった豊かな教育環境を創出する地域連携を通して「学びの連携」を展開します。

施策2 基礎的知識の定着・応用力の育成・学習意欲の向上を図る取り組みの推進

■現状や課題

- 仙台市標準学力検査の結果では、7割から8割の児童生徒が目標値を上回るなど概ね良好な傾向を示しているものの、基礎的知識の定着が不十分な児童生徒も少なくありません。
- 基礎的知識の定着や応用力の育成を図るためには、主体的に学習に取り組む態度が必要であり、児童生徒の学習意欲の向上や基本的な学習習慣の確立が求められています。その一方で、基礎的知識の定着や応用力の育成が進むことが学習意欲の向上につながります。
- 社会のグローバル化が進展する中、異文化理解やコミュニケーションの重要性が高まっており、実生活で役立つ英語力の向上が求められています。

(これまでの主な事業)

- 幼保・小の連携: 幼児教育と小学校教育の相互理解のため研修会、幼稚園・保育所等と小学校の連絡会議などを開催。
- 小1生活・学習サポーターの配置: 小学1年生の教室において児童が落ち着いて学習に取り組める環境をつくるため、地域や保護者の方を委嘱し学級担任をサポートする制度。
- 中学校区・学びの連携モデル事業: 中学校区内の小・中学校が一体となり義務教育の9年間を通して系統的な教育を途切れることなく行うことができるよう、教員の相互の授業交流や学習習慣づくりなどを行う(平成23年度～27年度実施)。

(用語解説)

※14 スタートカリキュラム: 児童が義務教育の始まりにスムーズに適応していけるような教育課程(カリキュラム)を構成すること。